The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	パターンによる流行受容 : 初期『ハーパース・バザー』の重要性
Author(s)	平芳, 裕子
Citation	デザイン理論. 2016, 68, p. 82-83
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/57978
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

パターンによる流行受容
── 初期『ハーパース・バザー』の重要性

平芳裕子／神戸大学

1．はじめに

『ハーパース・バザー（Harper's Bazar）』は，1867年に創刊されたアメリカ最初かつ最長の出版期間を誇るファッション誌である。本発表では，同誌の創刊から1880年代までの初期の時代に注目し，特集記事，イラストレーション，広告，付録などを主たる対象として，次の観点から雑誌の表象にアプローチする。すなわち，家庭内労働としての衣服制作と消費の対象であるファッションはいかに結びつくのか，ファッション誌におけるパターンとはどのようなものであったのか，パリのオートクチュールはいかに伝えられたのか，これらの三つの観点から雑誌の表象を考察することによって，初期『ハーパース・バザー』の特質とともに，ファッション誌とパターンの関係，近代ファッションにおけるパターンの役割を明らかにする。

2．女性誌からファッション誌へ

『ハーパース・バザー』は主力女性誌不在の時代に，「ファッション」を主たるテーマとして創刊された新しい雑誌であった。南北戦争後の都市経済発展を背景として，同誌は魅力溢れる新商品の広告を掲載し，最新ファッションを記事にした。だがファッションに関する情報は必ずしもオリジナルではなかった。同誌では，オリジナルのファッションスタイルを打ち出すことよりもむしろ，ニューヨークに届いたパリの流行情報を紹介することによって，パリを中心とするヨーロッパの流行文化圏にアメリカを位置付けることが目指されたのだ。

それと同時に，『ハーパース・バザー』は従来の女性誌が掲載した手仕事に関する記事も好んで掲載した。しかし産業革命後の時代においては，糸紡ぎや機織りはもはや過去の仕事となり，パターン（型紙）を利用して服作りをすることが読者たちに奨励された。ここで同誌は，最新流行のファッションを表紙や誌面で紹介し，それを実際に作るためのパターンを付録や通販で扱った。つまり，『ハーパース・バザー』は最新ファッションとそれらを作るためのパターンをセットにしたファッション雑誌であったのだ。

3．ファッション誌のパターンとして

それでは『ハーパース・バザー』のパターンとはどのようなものだったのだろうか。現存するものは数少ないが，ロードアイランド大学付属図書館コマーシャル・パターン・アーカイヴに貴重な事例が見られる。それらによれば，A１ほどの大きさの薄紙の両面それぞれに約25ものパターンが印刷されている。複数のパターンが重ねて印刷されており，本誌にはパターンを写し取る道具であるルレットの広告も毎号掲載された。とはいえこれらのパターンを間違いなくトレースするには相当の知識と技術が必要であったろう。そこで誌面には衣服制作の手法を教示する記事がさかんに掲載された。パターンを取るための具体的な手順，すなわち体の採寸方法やパターンへの適用方法などである。

これらのパターンは実際のところどれほどの需要があったのだろうか。実証的な資料は乏しいが，雑誌の通信欄における読者と編集

者のやりとり，特にパターンに対する質問と回答の内容から，付録のパターンがそれなりに注目を集めた様子が窺える。また，雑誌の巻末に掲載された広告から，『ハーパース・バザー』がサイズ別のパターンを扱っており，１セット９パターン入り２ドルで販売していたことがわかる。そしてこれらの広告に記載された商品名の推移から，人気商品が順次売り切れていった様子も見て取れる。

４．パターンによるパリ･ファッションの受容

『ハーパース・バザー』は19世紀商品経済発展の時代に，家庭裁縫と流行文化を結びつける役割を果たした。そしてこの時代はパリで新しい服飾産業が誕生した時代でもある。『ハーパース・バザー』はオートクチュールをどのように誌面で取り扱ったのだろうか。

オートクチュールの創始者とされるシャルル･フレデリック･ウォルトのファッションが『ハーパース・バザー』で初めて登場したのは1871年の記事内であった。“Worth Basque House Dress”の記事には，寸法と送料を添えて申し込むとドレス一式のパターンが入手可能と添えられている。つまりウォルトのオートクチュール自体ではなく，オートクチュールのドレスに倣ったファッションを記事は紹介しているのであった。また1874年の表紙に掲載された“Worth Basque and Full-Trained Trimmed Skirt”にも，パターンの案内が添えられた。はたしてアメリカのバイヤーがオリジナルのオートクチュールを輸入してアメリカでの販売権を獲得したのか，ウォルトがアメリカに向けた普及版モデルを自身で用意したのか，詳細は不明である。だが現存するパターンから，オートクチュールと普及版モデルとの関係が見て取れる。例えば1882年のウォルトのマントルのパターンと同時代に，オートクチュールのマントル（京都服飾文化研究財団所蔵）が現存する。これらは類似した特徴を持つことから，普及版ドレスのパターンのモデルとしての役割をオートクチュールが担っていた様子が推察できる。『ハーパース・バザー』は，パリに出向いて直接オートクチュールのドレスを注文することの困難なアメリカ女性たちに向けて，パターンに倣うことでオートクチュールの流行を取り入れる手段を提供したのである。

５．おわりにかえて

以上見てきたように，『ハーパース・バザー』は最新流行を伝えながら，流行の服を作るためのパターンを扱った。さらにパターンを普及させただけではなく，パリのオートクチュールに倣うスタイルのパターンも紹介した。パターンによる家庭裁縫が強力に推進されたアメリカに，パリのオートクチュールもまた理想的なモデルとして取り入れられたのだ。

最後にパターンの役割について考えてみよう。パターンは家庭裁縫の作業を合理化すると同時に商品経済を活性化させた。一方で，女性たちは裁縫という伝統的振舞いを通して経済活動に参入していくと同時に，パターンに倣い流行に従うという習慣を獲得した。

『ハーパース・バザー』はパターン付きのファッション誌として，19世紀後半のアメリカにおける流行受容に大きな役割を果たした。1880年代に入ると，『ハーパース・バザー』の他にもパターンを目玉特集とする新たな雑誌が登場する。『ハーパース・バザー』のスタイルは，続く女性誌・ファッション誌が追随するところのものとなるのだ。